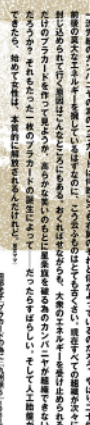


特別展「プラカードのために」

2025 年 11 月 1 日 (土) - 2026 年 2 月 15 日 (日)

笹岡由梨子
Sasaoka Yuriko



プラカードのために

For a Placard

November 1, 2025–February 15, 2026
The National Museum of Art, Osaka

2025 11.1 (+) **2026 2.15** (+)

國立國際美術館

※開催時間：10:00-17:00、全曜日は20:00まで ※入場は前売の30分前まで

【附註】一冊 1,500(1,300)円 | 大學型 900(800)円
 ※()内は2012以上の刊行回数(左)と15年間の刊行回数(右)を示す。

※心身に障りのある方とその介護者へは無料 要証明 ※本誌まで、同時開催の「コレクション2」もご覧いただけます

【全國總編】王曉松
【全國副總編】王曉松

【お問い合わせ】05-6447-4930(代) | 〒530-0005 大阪府北区中本島4-2-55

 国立国際美術館
THE NATIONAL MUSEUM OF ART, OSAKA

美術家・田部光子（1933-2024）は 1961 年に記した「プラカードの為に」と題した文章において、「大衆のエネルギーを受け止められるだけのプラカードを作り、その「たった一枚のプラカードの誕生によって」社会を変える可能性を語りました。過酷な現実や社会に対する抵抗の意思や行為、そしてそのなかに田部が見出した希望は、同年発表された作品《プラカード》に結実します。

この文章は、作品が生まれるまでの思考の過程を語ったものであると同時に、社会の動きを意識し活動するひとりの美術家の宣言としても読むことができます。「たった一枚のプラカード」とは、行き場のない声をすくいあげ、解放の出発点となるような、生きた表現の象徴でもあるのです。

田部の言葉と作品を出発点とする本展覧会は、それぞれの生活に根ざしながら、生きることと尊厳について考察してきた、田部を含む 7 名の作家の作品で構成します。作家たちは、これまで社会の中で覆い隠されてきた経験や心情に目を凝らし、思考し、そして自ら実践することで、既存の制度や構造に問いを投げかけます。彼女・彼らの作品を通じて、私たちを取り巻く社会やその歴史を見つめ直し、抵抗の方法を探りながら、表現することの意味にも立ち返ります。

一流労組のカンパニヤの為のプラカードは何故こうも右翼のそれと似かよっているのだろう。やはり二十代前後の莫大なエネルギーを擁しているはずなのに、こう云ふものはとても古くさい。現在すべての組織が次々に封じ込められて行く原因はこんなところにもある。おくればせながらも、大衆のエネルギーを受け止められるだけのプラカードを作ってみようか、高らかな笑いのもとに星条旗を破る為のカンパニヤが組織できないだろうか？ それもたった一枚のプラカードの誕生によって——だったらすばらしい。そして人工胎盤ができれば、始めて女性は、本質的に解放されるんだけど。（原文ママ）

——田部光子「プラカードの為に」『九州派 5』1961 年 9 月 10 日発行

本展の見どころ

◎時を超える声と実践

「プラカードの為に」で言及される《プラカード》と《人工胎盤》は、1961 年 9 月 14 ～ 19 日に東京の銀座画廊で開催された「九州派展」に出品されました。《プラカード》は 5 点から成るコラージュ作品（すべて 1961 年作。3 点が東京都現代美術館蔵、2 点が福岡市美術館蔵）で、労働争議での実体験をはじめ、三池争議や安保闘争、公民権運動、コンゴ動乱など同時代の出来事を背景に制作されています。支配的な構造に抗う「大衆のエネルギー」を表す本作は、襖を支持体に、コラージュやキスマークを施すなど、従来の美術の形式や素材にも挑戦しています。一方、《人工胎盤》（1961 年作は現存せず。熊本市現代美術館が 2004 年の再制作を所蔵）は妊娠初期のつわりの経験や、女性が社会において直面するさまざまな不平等から発想された作品です。近年、フェミニズム・アートの先駆的作品としても評価されています。本展では、再評価の進む田部光子の作品 28 点を展示します。



田部光子《プラカード》1961 年、
東京都現代美術館蔵



《プラカード》、《人工胎盤》前の田部光子、1961 年、
「九州派展」、銀座画廊、東京

◎今を生きる 6 作家の声と実践

本展覧会では、物故作家の田部に加え、近年特に注目すべき活動を行ってきた牛島智子、志賀理江子、金川晋吾、谷澤紗和子、飯山由貴、笹岡由梨子による、映像、インスタレーション、写真、絵画、立体など、多様な手法の作品で構成します。

牛島智子は、変形カンバスによる絵画制作と、拠点とする地域の産業や歴史に根ざした素材を支持体に用いるインスタレーションの制作を続けてきました。過去に発表した詩や言葉を不定形の和紙に書き写した「変形和紙文字」は、近年取り組むシリーズのひとつで、牛島の思考の一端を開示するものです。本展では「変形和紙文字」を構成要素のひとつとし、日々の生活と制作行為を重ねた新作インスタレーション《ひとりデモタイ 箒*筆*ろうそく》が披露されます。

志賀理江子は 2011 年の東日本大震災で被災し「復興」のありかたに圧倒された経験から、人間の精神とその根源に迫る作品を制作してきました。本展では、宮城県での生活のなかで志賀が紡いだ言葉や、抵抗となりうる行為をもとに、2022 年に制作された映像インスタレーションを新たに再編集した《風の吹くとき》（2022-2025 年）のほか、未発表の写真作品を展示します。

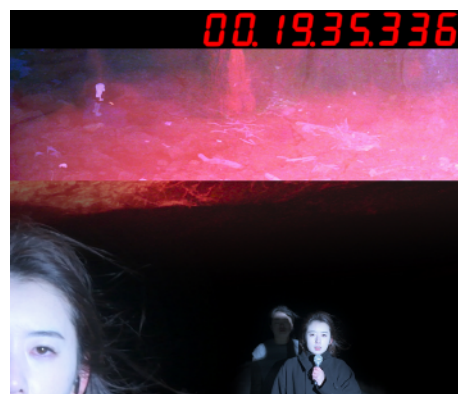
金川晋吾は近年、写真作品や文章、あるいはワークショップを通して、個人的な事柄を公に向けて示す試みを続けてきました。本展では現在進行形で取り組む二つのシリーズ「祈り／長崎」「明るくていい部屋」をご覧ください。いずれも、私たちが生きる上で避けがたく、しかしそれゆえに規範化されがちな「家族」や「信仰」等のイメージを、金川自身の身体そして生き方を通して、とらえ直す作品です。

谷澤紗和子の「ちいさいこえ」は、陶紙で作られた小さな「プラカード」です。歴史のなかでかき消されてきた声を可視化しながら、対峙する者の「力」や「大きさ」を問う作品です。本展ではこのほか、美術史において周縁化されてきた切り紙の手法を用い、女性の表現者の先達たちと仮想の対話を試みた「はいけいちえこさま」シリーズや新作インスタレーションも発表されます。

飯山由貴は記録資料や聞き取りを糸口に、個人と社会・歴史の関係を考察し、作品を制作してきました。《海の観音さまに会いに行く》（2014/2020 年）は、精神に障害を持つ妹の幻覚や幻聴を受けとめ、彼女にしか見えない世界を家族とともに見ようとした



牛島智子個展「トリへのへんしん」
展示風景、2022 年、旧八女郡役所
写真：長野聡史 ©Nagano Satoshi



志賀理江子《風の吹くとき》2022-2025 年
©liekoshiga



金川晋吾《祈り／長崎、セルフポートレート》
2022 年 ©Shingo Kanagawa



谷澤紗和子個展「ちいさいこえ」展示風景、
2023 年、FINCH ARTS
©Sawako Tanizawa, Photo by Haruka Oka
Courtesy of FINCH ARTS

映像作品です。他者の声に耳を傾け、その経験に歩み寄り、共に行動する試みを記録した初期作品をはじめ、これらに連なる近年の作品展開を紹介します。

笹岡由梨子は人形劇や CG 合成、自作の歌、手作業による装飾を用い、固定化された枠組や見方に揺さぶりをかける映像作品を制作してきました。本展では初期の映像作品と、国内初公開となる《Working Animals》を展示します。後者は、古いぬいぐるみから再生した動物たちが合唱しながら、観客である人間に労働の意味や構造について問いかけるインスタレーションです。

それぞれの制作の背後には、私たちの生活の身近にまだある、生きづらさを生む社会とその歴史へのまなざし、制度や権力による選別や排除に対する抵抗、周縁に置かれた存在の尊厳についての考察があります。彼女・彼らの表現は、過去や現状を問い直すだけでなく、この現実と未来に働きかける力を有していると言えるでしょう。さらに、そうした実践を支える、造形の力やイメージの強度、素材や技法の選択にも注目いただきます。

◎作家たちの実践が交差する展覧会

本展覧会では 7 名の作品が展示空間で交錯し、ときに干渉し、響き合います。重なりあい、ぶつかりあうイメージや声のなかから、抵抗の方法を見出すことができるでしょう。「たった一枚のプラカード」が象徴する生きた表現。作家たちの実践が交差する場をぜひ体感してください。

出品作家 ※変更となる場合があります

田部光子 Tabe Mitsuko

1933 年日本統治下の台湾に生まれ、1946 年福岡に引き揚げ、以後同地を拠点に活動。2024 年没。前衛芸術集団「九州派」の発足時から主要メンバーとして参加。生活者としての実体験をもとに社会への問いやメッセージを表現に託し、2010 年代まで旺盛な制作・発表を続けた。

牛島智子 Ushijima Tomoko

1958 年福岡県生まれ。1981 年大学卒業後に上京し、B ゼミに入所。個展を重ね、変形カンバスによる絵画を発表。90 年代末に福岡・八女に拠点を移してからは、生活や地域の産業・歴史に根ざした素材も用い、表現を日常の基盤として捉え、作品を制作する。

志賀理江子 Shiga Lieko

1980 年愛知県生まれ。2008 年に宮城県の北釜へ移住。人々や風景との出会いを通して、社会と自然、死と生、何代にも遡る記憶などをテーマに制作を続ける。2011 年の東日本大震災で被災し「復興」に圧倒された経験から、人間の精神とその根源へと深く潜り、迫る作品へと展開する。

金川晋吾 Kanagawa Shingo

1981 年京都府生まれ。最も身近な他者と言える父親や叔母を被写体に、個としての姿を尊重し、捉えた写真を発表。



飯山由貴《海の観音さまに会いに行く》
2014/2020 年、写真：宮澤響、飯山由貴
©Iiyama Yuki



笹岡由梨子個展「Animale」展示風景、2025 年、
PHD Group、香港
Courtesy of the artist and PHD Group.
Photo by Felix SC Wong

PRESS RELEASE

特別展「プラカードのために」

2025 年 11 月 1 日（土）– 2026 年 2 月 15 日（日）

近年は複数人で生活する日々を記録した写真やセルフポートレートの発表、文筆活動、ワークショップを通じて、個人的な経験や思考を社会へ開く実践を続けている。

谷澤紗和子 Tanizawa Sawako

1982 年大阪府生まれ。美術制度の外に置かれてきた素材や技法を用い、想像力を解放する装置としての作品を制作する。近年はジェンダーの視点から切り紙に携わった先達の作品や足跡を追い、マジョリティ中心の社会においてかき消されてきた声に着目した作品を発表している。

飯山由貴 Iiyama Yuki

1988 年神奈川県生まれ。記録資料や聞き取りを糸口に、個人と社会・歴史の関係を考察し、作品を制作。社会的スティグマが作られる過程や、その経験が語り直されることによる痛みや回復に関心を寄せ、近年は多様な背景を持つ市民やアーティスト、専門家とも協働し活動している。

笹岡由梨子 Sasaoka Yuriko

1988 年大阪府生まれ。絵画と映像、現実と虚構、生と死の間を探るべく、人形劇やローテクな CG 合成、自作の歌、手作業による装飾を用いた映像インスタレーションを制作。作品内では様々なキャラクターを演じ、身体部分を複数化し、固定化された枠組や見方に揺さぶりをかける。

会 期 2025 年 11 月 1 日（土）– 2026 年 2 月 15 日（日）

会 場 国立国際美術館 地下 3 階展示室（〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-55）

開館時間 10：00–17：00、金曜は 20：00 まで（入場は閉館の 30 分前まで）

※2025 年 11 月以降、夜間開館は金曜日のみとなります

休 館 日 月曜日（ただし 11 月 3 日、11 月 24 日、1 月 12 日は開館）、11 月 4 日、11 月 25 日、1 月 13 日、
年末年始（12 月 28 日 - 1 月 5 日）

主 催 国立国際美術館

協 賛 公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団

観 覧 料 一般 1,500 円（1,300 円）大学生 900 円（800 円）

（ ）内は 20 名以上の団体及び夜間割引料金（対象時間：金曜の 17：00–20：00）

高校生以下・18 歳未満無料（要証明）

心身に障がいのある方とその付添者 1 名無料（要証明）

本料金で、同時開催の「コレクション 2」もご覧いただけます。

関連イベント

○アーティスト・トーク

日時：2025 年 11 月 1 日（土）14：00–16：00（予定）

会場：B1 階講堂

本展出品作家によるアーティスト・トークを開催します。

※このほか、レクチャー、トーク・イベント、上映会やワークショップを開催予定。詳細は決まり次第、当館ウェブサイトなどでお知らせします。

一般のお客様からのお問い合わせ先

国立国際美術館 TEL：06-6447-4680（代表） URL <https://www.nmao.go.jp/>

PRESS RELEASE

特別展「プラカードのために」

2025 年 11 月 1 日（土）– 2026 年 2 月 15 日（日）

交通アクセス

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」（2 番出口）から南西へ徒歩約 5 分、Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋駅」（3 番出口）から西へ徒歩約 10 分、J R「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約 20 分、J R 大阪環状線「福島駅」から南へ徒歩約 15 分、J R 東西線「新福島駅」（2 番出口）、阪神電車「福島駅」（3 番出口）から南へ徒歩約 10 分、Osaka Metro 御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」（7 番出口）から西へ徒歩約 15 分

大阪シティバス「大阪駅前」から、53 号・75 号系統で、「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約 3 分（お帰りの JR 大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります）

広報画像ご使用にあたってのお願い

本展の広報を目的とした場合に限り、ご使用いただけます。「広報画像申込書」にて申請していただきますようお願いいたします。

「広報画像申込書」は、国立国際美術館のホームページからダウンロードしていただけます。

国立国際美術館「プレスの方へ」 URL <https://www.nmao.go.jp/press/>

画像の使用にあたって、次の点をお守りいただきますよう、お願いいたします。

- ・画像と一緒に送るキャプション及びクレジットを明記してください。
- ・画像のトリミングや、画像に文字を重ねての使用はできません。
- ・インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
- ・会期・会場・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で広報担当までメールまたは FAX にてお送りください。
- ・掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛にお送りください。
- ・インターネットに掲載した場合は、URL をお知らせください。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。使用後は画像データを破棄してください。

広報に関するお問い合わせ先

国立国際美術館 広報担当 太田道子

E-mail : kouhou@nmao.go.jp TEL : 06-6447-4671(直通) FAX : 06-6447-4699

企画担当

正路佐知子（国立国際美術館 主任研究員）